

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2017年 **春**号(季刊) 第143号

ただいまネーミング募集中!!

——ふじみの国際交流センターに多目的活用室が出来ました——

FICECの現在の事務所はワンフロア、仕切りなしのオープンスペースです。そこで日常、事務業務、生活相談、日本語教室、国際子どもクラブなど様々な活動がなされています。生活相談は決められた日時で行われているわけではないので、困りごとを抱えて飛び込んできた相談者と学習者が、同じ時間と空間を共有することも多々あります。加えて、高校を受験する学習者も片隅のテーブルで勉強していたりもします。事務所なので、もちろん電話も鳴ります。その様な状況なので理事長以下スタッフは常々、別フロアにもうひと部屋欲しいと願っていました。



そうした中、二月に「かめのり奨励金」をいただくことができ、それを活用して、以前より候補に上げられていた現事務所隣の建物の2階を借りることになりました。20年以上使われずにいたところですが、借りると決めたら早いもの、理事有志により部屋の床は綺麗に磨かれ、真新しいカーペットが敷き詰められ、リサイクル品ではありますがテーブルとソファも置かれました。4月末までには錆だらけの階段もきれいに塗り替えてくださるそうです。

フロアは東と南に大きな窓があり大変明るいスペースです。これからはこの部屋を相談室として、又ある時は静かに勉強する学習室として、はたまた外国籍の方々の談話室として、これまで以上に大勢の人に利用していただけるような、そんな楽しい空間にしたいと思っています。ただ今ネーミングを募集しています。新しい活用方法などのアイデアも提案してください。

(文責 新井順子)

第19回通常総会のご案内

開催日時／平成29年6月11日(日) 10時
場所／ふじみの国際交流センター
〔ふじみ野市上福岡5-4-25〕

6月11日(日)ふじみの国際交流センター事務所において、第19回総会を開催いたします。

日頃のFICECの活動を知っていただく機会となるよう、総会では各担当者が平成28年度の事業について報告いたします。ご支援をいただいている会員のみなさんはもちろん、関心のある方もぜひご出席ください。

総会後は軽食を用意し、親睦会を開催いたしますので引き続きご参加ください。※駐車場はありません。近くのコインパーキングをご利用ください。

////// DV被害者支援の流れ ////

FICECの活動の一つにDV被害者母子の保護と、再出発するための支援事業がある。開設以来54組の被害母子に仮一時保護施設としてシェルターを提供してきました。入居家族に対応して、フィリピン人グループ・中国人グループ・その他の国グループ・引っ越しグループの4つに分かれてスタッフが対応しています。



引っ越し奮闘記

佐藤義治 (FICECスタッフ)

石井さんからDV被害の外国女性の話を聞いたのは、センターに関わって間もなくのことだった。「本当に日本の男はダメなのよ」…結婚後日本の夫からの暴力に耐えられず家出したり、若い外国の女性とできてしまい結婚している妻を追い出すように暴力をふるう例も多いと言う。「罪滅ぼしのためにそんな女性にお手伝いして！」…石井さんの話はそんな雰囲気だった。なんで僕が罪滅ぼしをしなくてはならないのかわからないまま、被害女性の独り立ちのための引っ越しの手伝いをするようになった。

トラックを借りるために知り合いの工務店のTさんに電話すると、「いつでもいいよ」とのこと。でも、軽トラックではなかった。「そんな大きなトラックは運転できないよ」と言うと、後日電話があつて、「軽トラ、買ったから」とのこと。仕事で軽トラも必要だから、とは言うものの、一人でやっている工務店に二台のトラックは必要ないのでは、と思ったのと、いつ借りようとしても、二つ返事で「いいよ」と答えが返ってくるので、センターのために購入してくれたように思えてならない。

その新品の軽トラでいろんところへ引っ越しの荷物を届けた。

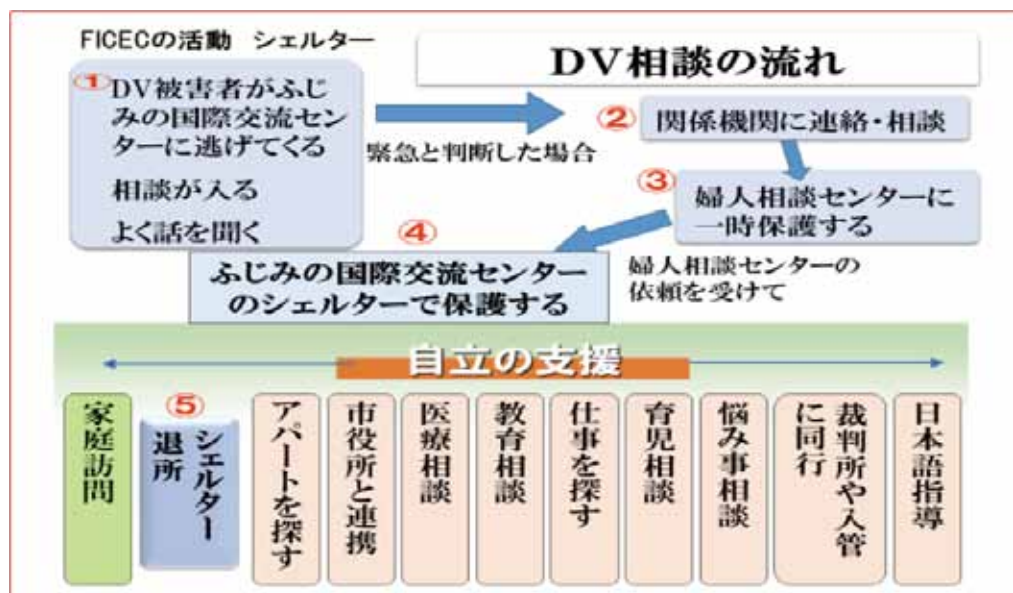
横浜の緑区へはIさんに同乗してもらった。東京を越えて

いく遠い道のりで、しかも坂道が多くて、マニュアル車なので難儀した。軽トラに古い家財道具を山のように乗せ、都内を走る姿は夜逃げ引受人のようだった。

荷物が多くて、同乗してもらったOさんにも車を出してもらって二台で運んだ。エレベーターのない3階までの重い荷物の荷揚げは、山で鍛えているとはいえ、ヘトヘトに疲れた。

引っ越しの手伝い、といっても、単なる荷物運びでないことも分かった。生活する上での、電気や水道などの面倒も見なければならぬ。

独り立ち、といっても当面は生活保護を受けざるを得ない。暴力をふるった夫のもとに帰ってしまう例もある。被害女性が生活保護からも卒業し、本当に独り立ちして「あの時は本当にありがとうございました」と言ってもらえる日を楽しみにして、いらなくなった家財道具がないか、物色する日が続く。



光陰矢のごとし、日本に来てもう5年目です。

周 文清さん

日本語も喋れない、日本について何も知らない中学生から、日常会話ができる大学生になって、とても不思議だと思いました。これは出会ったFICEC（ふじみの国際交流センター）の先生たちのおかげだと思います。

何もわからない時には平仮名、カタカナも難しく見えますが、何となく乗り越えました。しかし、その後何を勉強すればいいか、すごく迷いました。その時にふじみの国際交流センターに通い始めました。今から考えてみても、「行ってよかった」と思います。

先生たちはとても優しいです、そして詳しく日本語の文法を説明してくれて、難しい単語も簡単な話でとてもわかりやすいです。

土曜日に授業をやりますので、普通に通うことが出来ました。勉強だけではなく、センターでたくさんの外国の方もいますので、他国の人々と会話できて楽しいです。もちろん日本語の会話で自分のコミュニケーション力も良くなりました。

日本に初めて来た時にはすごく不安でした。故郷を出たことさえない人がいきなり外国に?! 親も日本語を喋れないから、自分ももっと頑張って勉強しなければと毎日考え続けました。センターでの勉強、先生たちから紹介された日本の文化、自分の目で見た日本の美しさが心の中の不安を抑えました。そして日本が好きになりました。本当に綺麗でとても過ごしやすい環境です。

勉強の日々を送りながら、日本語もうまくなりました。それから迎えたのは高校入試でした。外国人特別選抜入試で行くことに決まりましたが、入試科目としては英語、数学、面接の三つでした。面接に対しては困りました。何が聞かれるか、何を言えばいいのかよくわかりません。その時、先生たちがサポートしてくれました。聞かれるかもしれない問題やどうやって対応できるのか、たくさんのことについて教えてくれました。

そのおかげで無事に和光国際高校に合格しました。とても嬉しいです。でも、親が引っ越しすることが決まりまして、交流センターに通うことができなくなりました。

先生たちの優しさをいつも思い出しますが、学校の勉強生活もとても忙しいです。部活は好きな漫画研究会に入りました、頼りある先輩たちと出会って、同級生の中にも友たちが出来ました。

高校1年生の時に日本語検定1級を合格しました。日本語の勉強はただの資格証明書を取るためだけでなく、応用や実践力を伴って日本の社会や文化を深く理解することが大事だと思いましたが、やっぱり嬉しかったです。

古文が苦手なので高二の時に理系を選びました。人それぞれかもしれないが、外国人の中の多くは理系を選ぶのではないかと考えました。

一番楽しいのが修学旅行でした。本来の予定はマレーシアに行きますが、テロのことで大阪に変わりました。USJ(ユニバーサル・ジャパン)はとても楽しかったです。ご飯もとても美味しかったです!!

自分の高校生活を豊かにするために、夏休みの時にボランティア活動をしました。子どもたちがとても可愛いです! 好きでした。

高二の夏に私は日本の大学に進学して、薬学を学ぶことに決めました。難しいことはわかりませんが、難しいからこそ頑張ります。

三年になったらずっと忙しかったです、毎日勉強していました。苦労しましたが、薬科大学に合格して、今は卒業待ちです。

今でも日本に来たことを後悔していません。「日本に来なかったら、どんな生活だったでしょう」とたまに考えています、でもやっぱり来て良かったです。センターの皆様との出会いも一生の宝物だと思います。





スタッフ紹介

「中国籍の子供への 取り出し授業」

ジャン クー
江 科

私がFICECのお世話になったきっかけは、2010年、実家の母が来日した際に、FICECの日本語教室でお世話になったことでした。短い2カ月間でしたが、母にとってはとても良い体験となりました。その時、母は「日本の女性はすごい活動力ですね。ある先生は、二人の子供の子育てをしながら、ボランティアで日本語を教えています。ある先生は、私より年上だと思います。私も見習わなくちゃね」と話してくれました。私も少しでも恩を返そうと思い、翻訳のボランティアに登録しました。その縁で、日本語文章の翻訳などを通して、FICECの活動を手伝わせていただいています。

一昨年、事務員の募集がきっかけで、事務所に顔を出しました。子育てにまだ手がかかるため、事務員を断念し、山崎さんの紹介で、昨年5月から「ふじみ野市内の小中学校で中国籍の子供への取り出し授業」を始めました。「取り出し授業」というのは、外国から来たばかりの子供たちに対して、通常の学校授業とは別に、別室で日本語を集中的に教える活動です。実際やってみると、分かったことが二つあります。

一つは、取り出し授業は単に日本語を教えるだけではなく、子供の日本語能力に合わせて、弱みを補う指導もしなければいけません。例えば、作文の書き方の指導、国語の予習などがあります。

もう一つは、日本語があまり上手ではない親も時々いらっしゃいます。そういう時は、学校と家庭との間の通訳、親への支援も入ります。例えば、学校への欠席の連絡、面談の同行、入学説明の通訳、宿題の説明などがあります。もちろん、子供たちの悩み相談も受けます。それが一番難しいと思います。幸い、FICECの先輩たちが皆親身に適切なアドバイスをくれるので、何とか一年間頑張ることができました。最近子供たちの成長を見て、やっと教え方に対する自信が少しくようになってきました。

私自身は日本の大学で勉強してから中国に帰って、日中貿易・日中友好に役立てる仕事をしたいという夢をもって、1993年に来日しました。縁があり、国際結婚を経て、ずっと日本に暮らすことになりました。国際結婚は日々の国際交流です。日本に来て二十数年を経ても、いまだにカルチャーショックを受けることがあります。来日して間もない子供たちは尚更大変です。自分の勉強経験、国際交流の経験を子供達の悩み相談に少しでも役立てたらうれしいなあ～と願っています。



番外編

「イギリスで暮して」 山本 バン

夫がロンドンの会社に転勤することになったので、私達家族はしばらくの間イギリスに住むことになりました。

私達は木々や緑の芝生や様々な種類の花に囲まれたロンドン郊外にある家に住みました。

買い物に行くと、支払いの時に、レジの店員が客とちょっとした会話をすることができます。それは人々のコミュニケーションの一種で、とても温かくて素敵なもので、決して仕事の一環というだけではないので、私はそれが本当に好きでした。

イギリスでは、家は皆色とりどりに美しくデザインされ、とても可愛らしいです。通常、家はどれもかなり古いですが、どの家もまるで芸術品の様で、見る者を楽しませます。しかし、突然の停電や断水、雨漏りのようなハプニングもよく起こります。最初はとても驚きましたが、段々慣れてきました。家と言えば、私は特に玄関のドアが好きです。ドアはその家の家主に似ていて、それぞれの家はそれぞれの思いを持ったそれぞれのドアを持っています。ドアは大抵さ

ほど大きくはなく、私はなぜイギリス人がこのような小さなドアに耐えられるのか不思議でなりません。

冬でも鮮やかな緑色をしている芝生も素晴らしいです。ロンドンでは、あらゆる公園でとてもみずみずしくていきいきした色合いの緑を見ることができます。ロンドンはかなり大きな都市なので、そこでたくさんの緑と色とりどりの場所を見られるとは思いませんでした。

ロンドン是世界の家だと言えます。どんな場所でも、さまざまな国の言葉が飛び交っており、お店では異なる国籍で宗教すら違う人々が一緒に親しげに働いています。

私たちはイギリス国内をたくさん旅行することができました。特に、ナローボートと呼ばれる細いボートで昔使われていた運河を探検する旅は、とても印象的でした。昔のイギリス人とその生活について深く知りたいなら、この旅をおすすめします。現代の生活とかけ離れた世界を覗くことができるのです。ナローボートで旅をしなければ、美しい田舎の風景の

ある本当のイギリスの村々を見ることはできないでしょう。これ以上は言いません、もし、イギリスの運河やナローボートに興味があるなら、Googleで検索してみてください。しかしながら、私たちの旅は日本人女性のナローボートのツアーコンダクターのお陰で、より忘れられないものになったのだと思います。

私にとって、ロンドンでの生活は人生における大切なポイントのひとつで、夢のようでした。さらに、日本から遠く離れたところに住んで、私は日本人が互いにどれほど支え合い、助け合って生活しているかを理解しました。私は日本の地元の人々を尊敬する地域社会を誇りに思います。

ふじみの国際交流センターを応援しています

塩野芳雄さん（学識経験者）

日本語教室から国際交流センターを始めてもうすぐ30年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

これまでことばに表せないたくさんのご苦勞もおありのことと思います。それらを乗り越えての達成、本当におめでとうございます。

首都圏30kmと、これまでの大井町は町のあちこちで区画整理が始まり、将来の街作りに向けて進んでおりました。その中で遅れていたのがソフト面ではなかったかと思っています。

今はやりの1Mの世界でもハードとソフトのバランスが大切だと思います。街づくりも同じでハードは進んでいたがソフトが遅れると思っておりました。

そのソフト面をいち早く進めたのが石井ナナエさんでした。

何もわからない外国の若者が日本に初めて来て、ずいぶん救われたのではないのでしょうか。そこには「一期一会」がたぶんあったと思います。このことは石井さんにとりまして将来の大きな財産になると思います。これからも、素晴らしい日本の文化や歴史を広げてもらいたいと思います。

30数年前に大井町の公民館運営審議会委員でお世話になって以来、これまで大変ご苦勞様でした。これからもお体を大切に、日本のために頑張ってください。まずはお祝いまで。

見送りの3振より空振りの3振 **パートⅡ** 石井ナナエ

○月○日

FICECは、その活動を継続し充実させるために毎年10件以上の助成金の申請をしている。しかし在住外国人を対象とした助成金の数は少なく、競争率も激しいためになかなか選ばれるのが困難な状態が続いていた。ところが2016年暮れに「朝日こどもの貧困助成」を、2017年2月に「かめのり奨励金」をいただくことができ、「神ってる」を実感している。

「朝日こどもの貧困助成」は、こどもの貧困問題に取り組む斬新な視点や発想がある事業を公募し、朝日新聞社が助成してくださるものです。FICECは「外国人の貧困家庭の子どもや親に対する支援実例集の作成と、養成講座の開催」で申請したところ、助成していただけることになった。

1月に入って早速、28年間の体験実例をもとに在住外国人支援実例集の作成に取りかかり、3月に原稿は完成し、現在は最終チェックに入っている。6月から「ボランティア養成無料講座」を開催、外国人相談窓口設置の必要性を感じながらも躊躇している県内各地の行政職員や市民に、開設時のノウハウや運営方法、支援の仕方等を伝えることによ

て、法の狭間で苦しんでいた在留資格のある在住外国人を救うことができたら良いと期待している。

「かめのり奨励金」は、公益財団法人かめのり財団からの活動奨励金。財団創設者の康本健守さんが、10年前に設立された。韓国済州島出身で1927年18歳の時日本に渡り、真摯な努力と誠実な人柄でゴム会社や賃貸マンション業を営む共立ビル（株）を設立し発展させた尊父のお名前（康本亀範・かめのり）からとったもので、その成り立ちに強く感銘を受けた。

授賞式でお会いした康本健樹さんは、すごいことをなさっているのに温厚で、えばる気配もなく、落ち着いた静かな感じの方だった。外国人と日本人が一緒になって活動しているFICECの活動に「良い方法ですね。頑張ってください」と励ましてくださった。

FICECはこの奨励金で手狭になった活動場所をカバーするための多目的室を借りる家賃に当てることにした。大勢の人の交流の場として、若者たちの学習の場としてここを使ってもらい、創設者の意志にもあるように「日本を好きになってもらいたい」と願っている。

12月22日夕方、日本テレビでふじみの国際交流センターの活動が紹介されました。タイトルは「外国人の駆け込み寺」。DV被害で保護を受けているフィリピン人親子が大きく取り上げられました。



埼玉県のある施設には悩みを抱えた日本で暮らす外国人たちが訪れる。ここは外国人たちの駆け込み寺となっている。ここの日常を追った。



埼玉・ふじみ野市にあるふじみの国際交流センターには、日本で暮らす外国人が生活の悩みや困り事の相談に来る。チリ出身の男性は日本に来て20年経つが日本語が少ししか話せないため、日本語を身につけたいという。そこで、スタッフは無料で学べる日本語教室を紹介した。ここは相談無料で予約も不要である。外国語を話せるスタッフたちがボランティアで対応し、年間の相談件数は600件以上である。理事長の石井さんは日本語教室を開いた経験があり、そこで外国人の苦勞を感じ、取り除いてあげたいと考え、センターを開いた。

駆け込み寺にやってきた外国人の少年に、日本に来たことについて尋ねると「フィリピンでの生活は貧しかったから好きじゃなかった」と話し、学校については「楽しみじゃない、日本語が話せないから」と不安を語る。少年の母親は、前日の夜から飲食店で働き始め、相談員は昼間の仕事を勧めたが、日本語ができなければ仕事

は限定されるとのこと。学校に不安だった少年に、ランドセルをプレゼントすると少年は笑顔になり、不安を抱いていた学校に「行くのが楽しみ、友達をたくさんつくりたい」と話す。

ある日、仕事も家もないパキスタン人女性が訪れた。女性は親の言いつけでパキスタン人男性と結婚し、夫の都合で来日したが、夫が日本人の先妻と子どもの存在を隠していたことが発覚し、女性から離婚を申し出たが、元夫から脅されるようになった。女性はパキスタンに帰れず、今は難民の申請中。しかし、仕事に就けず収入がない。実は難民認定申請者は条件を満たせば生活支援を受けられる。その話を知った女性は落ち着き、石井さんは支援金の申請窓口を教えて送り出した。

2人の子どもの持つフィリピン人女性はふじみの国際交流センターで運営しているDV被害者の保護施設で寝泊まりしている。施設は1DKのアパートで家具や家電、生活費も支給される。センターでは女性が少しでも早く自立できるようサポートをした。その際に、漢字の書き方もレクチャーした。

またセンターでは外国人の子ども向けの学習教室も開いている。あるフィリピン人女性は、息子を小学生に入れたいが手続きがわからないと相談した。息子は既婚の日本人男性との間に生まれた子で、1か月前に日本国籍を取得したばかりである。息子は小学校に入学するまでの間、センターで勉強することになった。

(gooテレビ番組 番組概要より)



テレビの影響力は大きく、放映から2か月を過ぎても、「わたしにできることがあればお手伝いしたい」「息子のランドセルを寄付したい」と温かい連絡や応援のメッセージは後を絶ちません。

番組を通して、FICECの活動や外国人事情に関心を寄せてもらうことの大切さも実感しました。多くの方のご厚意に触れ、背中を押していただいたような気がいたします。

「かめのり賞」を受賞しました

公益財団法人かめのり財団より、日本とアジア・オセアニアの相互理解の増進に草の根で貢献している団体に贈る「かめのり賞」を受賞し、表彰式に出席しました。

FICECの長年の活動を評価していただき、本当にありがとうございました。
(17年2月7日)



そば打ち体験 SOBAUCHI

昨年最後の日本語教室で「そば打ち体験」をしました。そば粉と小麦粉を混ぜて、こねるところから手作りしました。できあがったそばを、みんなで食べました。(16年12月12日)



書きぞめ KAKIZOME

日本語の勉強のあと「書きぞめ」をしました。スタッフの用意したお汁粉(おしるこ)もいただきました。

(17年1月12日)

ひなまつり HINAMATSURI

『ひなまつり』をしました。琴(こと)に合わせて「うれしいひなまつり」の歌をうたい、「さくらもち」と「ひなあられ」をみんなでいただきました。希望者は実際に琴を弾く体験をしました。

(17年3月2日)



ウズベキスタンの話を聞く会

3月11日(土)にFICECの事務所で「ウズベキスタンの話を聞く会」を開きました。

ウズベキスタン人ご夫婦がプロジェクターを使い、ウズベキスタンの歴史や文化についてお話をしてくれました。

ウズベキスタンにはシルクロードの重要な交易都市だった所があり、民族も多民族だそうです。参加者からたくさん質問が出て、大変楽しい会となりました。



センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

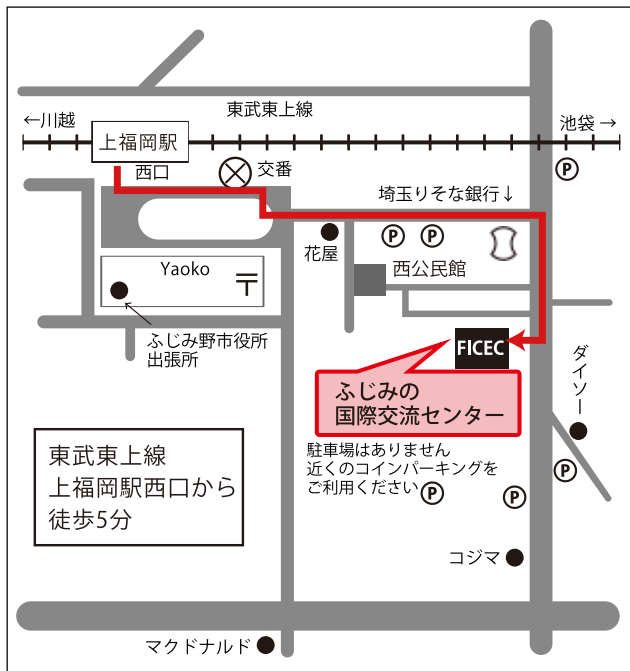
郵便振替口座: 00110-0-369511
 口座名: ふじみの国際交流センター

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00
 電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
 センターをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291
 生活相談専用電話 049-269-6450

ご寄付をいただいた方々
 ご支援ありがとうございます

●2015年7月1日～2017年3月31日 (50音順・敬称略)

秋本ノエミ、足立中3年D組、新井順子、新井節、新井洋子、新井良治、安部幸枝、安銀柱、石塚雄康、石山達也、イスマイロワマストラホン、伊藤真弓、板倉浩子、市川美緒、上原美樹、遠藤慧子、尾浦与子、大澤エミリー、大澤さよ、大室昭浩、小熊一雄、葛西敦子、粕谷光宏、加藤由里子、金沢国勝、金田康好、神田順子、木村不二雄、木場ひろみ、木村澄江、久野弓枝、樟山直美、熊谷洋興、栗嶋三千代、小林暁美、駒形一夫、近藤知代、酒井有香、佐竹裕子、佐藤弘康、佐藤義治、佐藤光江、塩野輝之、芝山喜己子、島田道子、島田敏郎、ジェニファアラグリン、ジョージチャ、江科、鈴木讓二、関ニーランテイ、高橋郁子、滝澤淳子、竹内直江、武田和子、武田早希、立麻肇子、田中つや子、チャミラー、チャミング、鄭玄淑、坪田幹男、出口優子、寺村璧如、戸塚咸子、中島恵津子、中村禎作、萩原千代子、早瀬佐恵子、彦由章、平野美千子、藤島伸子、星野秋梅、本多香、松本佑子、向吉孝子、村山光代、茂木久美子、森田信子、八木一之、矢澤美紀、山内典子、山口勇、吉井ジュリエッタ、(株)吉岡、吉永義仁、邱皇親、邱亜蘭、李李銘、劉圭霖、集英社、東入間地区遊技業防犯協力会、立麻医院、イオン(株)大井店、富士見市国際交流協会、匿名1名

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センター

サービス案内

外国人	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費
ゲスト派遣	外国料理教室	5,000円 (材料費別途)
日本人	多文化共生講座	20,000円+交通費
講師派遣	ボランティア講座	(活動運営のためご協力ください)
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	内容・予算に応じて相談
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ
	その他文書	A4 3,000円/ページ
通訳	半日5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日
○印刷機、コピー機が使えます		

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、生活相談・外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。